

編集後記

桜の華が満開に咲き、鶯の鳴き声が春の訪れを告げているこの穏やかな季節に、保健医療学雑誌 6 巻 1 号をお届けいたします。今号には、Original Article 1 編、原著論文 1 編、総説 1 編、資料 1 編が掲載されております。

Ogaya 論文では高齢者の歩行中に膝関節の内側に係る力と膝の機能障害に関して検証しています。膝に疼痛を有する高齢者と膝内側に係る力には有意な相関があったことを見だし、内側に係る力が強くなるほど膝の機能障害が重症化するとしています。

芥川論文では加速度センサを用いた歩行分析の妥当性を検証しています。高額な機器を用いずに歩行障害を臨床で評価できる可能性を示しています。

森論文では人工内耳についての現状をレビューしています。人工内耳手術が行われてから 30 年が経過し、我が国でも人工内耳装着者が 1 万人を越えているとの事である。しかし、今なお人工内耳の機能には改善の余地が残されており今後の発展に期待したいと思います。

最後の明崎論文では近年注目を集めている『ガンのリハビリテーション』においてリスク管理を行う上で重要な骨転移についてまとめられています。ガンのリハビリテーションはまだ歴史が浅く今後ますます社会からの要望が高まっていく分野であり、他職種一丸となって発展させていくことが必要であると示唆しています。

2015 年も気がつけば 1/4 が経過してしまいました。保健医療学雑誌も皆様のおかげで通巻 11 号まで発刊することができました。過ぎゆく日々を振り返るとあっという間の出来事なのですが、確実に前に進む事ができていることが実感できる至福の時間でもあると思います。今後も保健医療学雑誌はますますの発展を目指して参りますので皆様からの多くの投稿をお待ちしております。

(2015 年 3 月 30 日)

編集実務担当

椰野 浩司 (関西福祉科学大学)